

福祉楽団

ケアを考え「暮らし」を良くし 福祉を変える



ACCESS!

福祉楽団ではたらく

RECRUIT ISSUE

GAKUDAN JOURNAL

私の仕事

YASHIO

杜の家

やしお



今日は「煮ぼと」の下ごしらえ

「杜の家」は暮らしの場です。入居された方が、自分で包丁を使って料理をしたり、急須でお茶を入れたり、それまでの生活を続けられるようにお手伝いします。今日の晩ごはんは、中村すいさんの故郷・群馬の郷土料理「煮ぼと」。野菜たっぷりの煮込みうどんです。中村さんの包丁さばきはプロ級で、私もよく教わっています。

日向ぼっこでバスケ観戦

玄関前のバスケットボールコートには、近所の子もたちが遊びに来ます。夕方や休日は中高生が本気で3on3をやっているかなりの白熱ぶりです。敷地内は、地域の人たちが自由に通り抜けできるし、職員の子もが通う「ツルガソネ保育所」もあるので、入居さんと散歩や日向ぼっこをしていると、いつもだれかと自然に交流が生まれます。



恋バナに 花が咲きます

就寝前は、入居者さんとゆっくり話せる大切な時間です。和田順子さんは、着物の着付の先生をされていた頃の話や、生前の旦那様との思い出や馴れ初めを聞かせてくれます。夜の恋バナはやっぱり盛り上がりますね(笑)。「杜の家」では、入居前の暮らしをできるだけ続けられるように家具や仏壇などを自由に持ち込んでいただけます。



「だれでも食堂」はじめました

「地域のなんでも相談所」をめざしてスタートした、だれでも無料で参加できる毎月1回のイベントです。12月はクリスマスの飾り付けをして、みんなでマシュマロに絵を描きました。食や遊びを通して、地域の子どもや高齢者、お母さんやお父さん、学生たちと関係を築くことから始めています。



吉田 響 [23]

Yoshida Hibiki

杜の家やしお
ケアサービスワーカー

介護福祉士実務者研修 修了
2000年 東京都生まれ
日本女子大学 文学部 卒業

大学生の時にスウェーデンの老人ホームに行ったことをきっかけに介護に興味を持ちました。就活中に20か所以上の施設を見学し、一番自由で開放的な福祉楽団に入職を決めました。休みの日は趣味のクラシックバレエのレッスンに行ったり、都内の居酒屋やビストロに友だちと飲みに行きます!

当事者の最善を考えつづける

杜の家くりもと

生命力の消耗を最小限に生活を整える



爪切りのケアでも、爪の構造を理解したうえで、切り方を検討しなければなりません。一方で、慎重になりすぎたり、淡々とケアをしてしまったら、利用者さんに不安や恐怖心を与えてしまいます。生活の視点に立ち、自然にケアすることを心掛けています。

科学的な根拠に基づき、ケアを考える

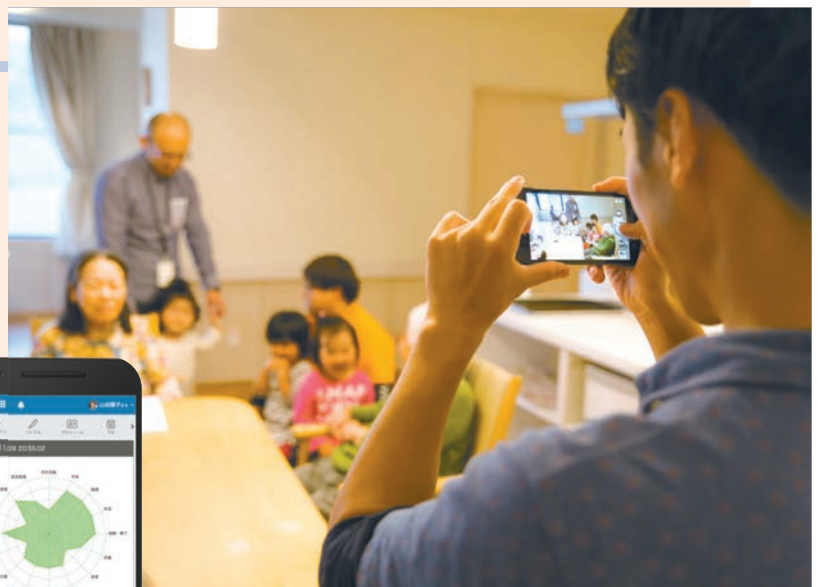
私の仕事である高齢者の介護では、科学的な根拠を持つことが重要だと考えています。高齢になると、皮膚や血管がもろくなってくるので、伸びた爪で掻くだけで傷ができてしまったり、内出血が起こりやすくなります。だからといって、爪を短く切りすぎるとばい菌が入ってしまう。「爪を切る」というケアひとつでも、このようなことを考えながら行わなければなりません。介護という「優しさ」や「思いやり」というイメージがあるかもしれませんが、そうではなく、人の身体を科学的な視点でとらえて、生命力の消耗を最小にしながら、生活を整えるのが介護の目的です。新入職員研修では、『人体の構造と機能』という教科書を使いながら、解剖生理学を、同期と一緒にイチから勉強しました。今も教科書を使って勉強しています。



1人1台スマホでケアコラボ

「杜の家」では、ケア記録を「ケアコラボ」というシステムで行っています。スタッフが1人1台スマホをもって、入居さんの体温や血圧、食事量や排泄の状況などを記録します。入居さんの生活の様子も記録します。とろみがついている飲み物ならたくさん飲めたとか、入浴介助をしているときに皮膚の異状を見つけた、とか。文字だけで伝えきれないときは、写真や動画を活用します。記録はリアルタイムで更新されるので、他の職員や、離れた場所にいるご家族も見ることができます。生活の視点から、だれにとってもわかりやすく、読んでおもしろいような記録を意識しています。ご家族が記録にコメントをくださるときは、本当にうれしいですね。

スマホは毎日使うので、スマホで記録できるのはとても便利だし、自然です。写真や動画を活用すると、記録も楽しくなります。シャッターチャンスを見逃さないように、いつも準備しています。



「杜の家くりもと」の中庭には、大きな桜の木があります。春になると、利用者さんと一緒にお花見するのが恒例になっています。いつも春が楽しみです！

カギはかかっていません

「杜の家」の玄関や扉、エレベーターなどには、基本的にカギがかかっていません。入居さんは、好きなときにご友人のところへ遊びに行ったり、中庭に散歩に行ったりします。私もたまに付き添わせてもらい、楽しい時間を過ごします(笑)。「危険なのでは?」と言われることもあります。でも、生活の場にカギがかかっているというのは不自然だと思っています。入居さんの身体や移動の自由を拘束することは、必要最小限にしたい。これからも「当たり前の生活」を支えていきたいと考えています。



谷川真行 [23]

Tanigawa Masayuki

杜の家くりもと

ユニットサブリーダー

介護職員初任者研修修了

1999年 東京都生まれ

杏林大学 外国語学部 卒業

アイデア次第で幅広い分野に挑戦できそうだし、と思い、福祉楽団に入職。福祉は未経験だったので不安でしたが、入職前後に先輩方の手厚いサポートがあり、不安は克服できました! 趣味は旅行。計画を立てている時間が一番楽しいです。

福祉を「売り」にも「言い訳」にもしない

恋する豚研究所



「恋する豚研究所」の商品は、美味しさだけでなく、手に取りたくなるような見た目も魅力です。商品の見栄えがよくなるよう、お肉はきれいに、丁寧に梱包しています。

「恋する豚研究所」では、障害や働きづらさのある人と一緒に、精肉の加工や、ハム・ソーセージなどの製造を行っています。しゃぶしゃぶやステーキハンバーグのレストランもあり、休日は多くの人で賑わいます。障害や働きづらさのある人も、持てる力を活かして働き、それに見合うお給料を得られるようにしたい。そのために、福祉を売りにはせず、お客様に魅力を感じてもらえるような、商品やサービスのあり方を追求しています。私も利用者さんと一緒に、包丁で豚肉をさばいたり、制服を着てレストランで接客をしたり、時には人生や恋愛の相談を聞いたり……(笑)。なんでもアリの仕事をしています。そんな「恋豚」で、いっしょに働いてみませんか？



植村 航 [28]

Uemura Ko

恋する豚研究所 就労支援員

介護福祉士・社会福祉士・
精神保健福祉士・
福祉住環境コーディネーター2級
1994年生まれ 埼玉県蕨市出身
上智大学 総合人間科学部 卒業

大学に掲示されていたポスターをきっかけに福祉楽団を知りました。福祉の勉強をしていたもののあまり福祉に興味がなく「おもしろそう」を選びました。読書が好きで、いつか小さい図書館を開くのが夢です。

いつでも、だれでも、どんなことでも

香取 CCC

地域には、障害、貧困、虐待、依存など、さまざまな事情や課題を複合的に抱えた人たちが暮らしています。「香取CCC」は、地域の相談所であり、子どもから高齢者まで、いつでも、だれでも、どんなことでも相談できるのが特徴です。私たちの支援は、不登校の子どもと公園で遊んだり、住み込みの仕事をクビになった人と一緒に不動産屋に行って住まいを探したり、刑務所から出所した人の役所での手続きに同行したりと、さまざまです。これまで多くの人と出会い、人それぞれ大切にしたいものがあり、望む暮らしもそれぞれなのだ学びました。一人ひとりの生き方が尊重され、さまざまな人が共生できる社会をつくっていきけるよう、活動していきたいです。



相談の内容と同様に、私たちの支援の内容もさまざまです。生活に必要な物資をお届けしたり、定期的になだれでも無料でご飯を食べにこられる食堂を開催したりしています。



松丸美沙 [29]

Matsumaru Misa

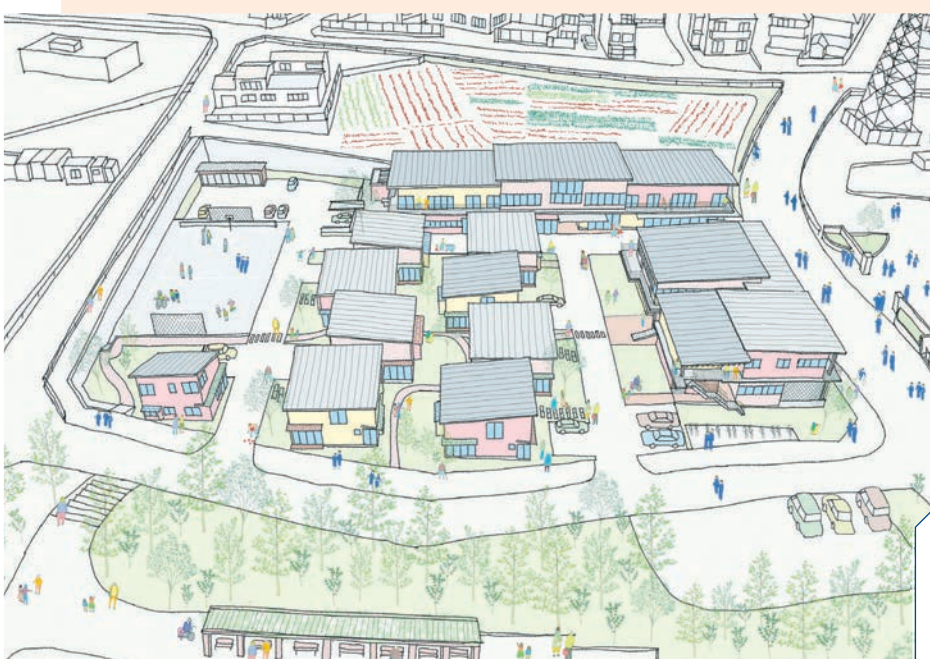
香取 CCC
相談員

精神保健福祉士・社会福祉士
1993年 千葉県生まれ
上智大学 総合人間科学部 卒業

より良いケアとは何かを考えている姿勢と、働いている職員が生き生きしているところに惹かれて入職を決めました。動物が好きで、毎日動物の動画をみて癒されています。

みもみ
実初パークサイドハウス

2024年、 児童養護施設をはじめます



子どもの住まいは「家」をイメージして計画しています。施設の隣には高校や公園があるので、高校生や地域の人が通り抜けたり、立ち寄りやすい場所をイメージして計画を進めています。

いま、親からの虐待を理由に家で生活ができない子どもが増えています。この課題に応えるため、私たちは千葉県習志野市に児童養護施設をつくることにしました。子どもたちが、安心して安全な当たり前の生活をし、ありのままにいられることが大切だと考えています。そのため、住まいはなるべく家庭に近い環境をつくり、小規模な集団をベースに、子どもの生活を支援していきます。また、建物は地域の人が入ってやすいようデザインし、障害のある人の就労支援、高齢者や医療的ケアを必要とする人向けのサービスも併設します。子どもたちが、さまざまな人と育ち、共に生きていけるような、あたたかい社会的養護を実践する施設にしたいと思っています。このプロジェクトと一緒に挑戦していく仲間が必要です。みなさんのことをお待ちしています。



藤堂智典 [46]

Todo Tomonori

実初パークサイドハウス
施設長予定者

社会福祉士・公認心理師・介護職員
実務者研修 修了・相談支援専門員
1976年 群馬県生まれ
明治大学 政治経済学部 卒業

児童相談所の職員だった私は、長期間にわたって一時保護されている子どもの多さにもたってもいられず、ある日「児童養護施設をつくってください」と「香取CCC」に飛び込んだのが、転職のきっかけでした。そしてなんと福祉楽団も構想を抱いていたのです。ビックリ。

社会福祉法人の責任を果たす

農業・林業で地域をケアします

栗源第一薪炭供給所 (1K)

畑ではたらく

「栗」 源第一薪炭供給所 (通称1K) では、農業・林業と福祉を組み合わせ、放置されてしまった畑や森林の管理を行っています。農業の分野では、高齢化や担い手不足で管理が行き届かなくなってしまった地域の畑を借りて、障害や働きづらさを抱えた人も一緒に、千葉県香取市特産のサツマイモをつくっています。近隣の農家さんにイチから教えてもらいながら、みんなで一緒にがんばっています。収穫したサツマイモは、「スイートポテト」や「いもラテ」にして、敷地内のショップで販売。「1K good neighbors (イチケグッドネイバーズ)」というブランドを展開し、サツマイモの楽しみ方を提案しています。地域全体を盛り上げるきっかけとなれるよう、これからもたくさん売っていきたくです。



写真の「ポテカルゴ」(愛称 ポテト+エスカルゴ)は高性能サツマイモ収穫機です。その名の通り超低速走行ですが、職員はこの機械を操り1日に1.5tのサツマイモを畑から掘り上げます。



道づくりは北海道と奈良県の林業の技術者を招いて、路線の通し方や傾斜のつけ方などを教わりました。丸太を組み土に埋めることで崩れにくい工夫を行います。

森ではたらく

「林」 業も農業と同様に担い手の高齢化や人手不足が進んでいます。長いあいだ手入れがされてこなかった森林の木は、強風で倒れやすく弱っています。台風などで木が倒れて、そのまま放置されている森林も多くあります。私たちは、こうした木を搬出して薪を作っています。また、2021年9月からは、木材の活用と障害のある人の新しい仕事をつくるため、家具の工房をはじめました。現在では森づくりから薪と家具の製造・販売までを目指し、行政と一緒に森づくりを考える活動まで発展しています。だんだんと活動が認知され、畑や森林の手入れは地域の人たちから次々とお願いされるようになりました。これからも香取市の新たな魅力を発信できるよう活動していきます。

小さな地産エネルギーをつくる

「エ」 ネルギーといえば電気やガソリンがイメージされますが、じつは薪も立派なエネルギーです。「1K」では暖房や給湯に薪をつかい、地域の山林を熱エネルギーとして活用するカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを実践しています。育った木を使うことで、森林の若返りを促し、こつこつと手入れを続けていくことが地産エネルギーを生み出すためには必要です。また、地域内にある銭湯や老人ホーム、養豚場などに薪ストーブや薪ボイラーの導入を普及させ、木材を消費する場所を増やすことで、エネルギー供給先をつくることも大切です。エネルギーという大きな問題は、地域の小さな取り組みで解決できるのではないのでしょうか。



この薪ボイラーに1日に3回ほど薪を投入すると、だいたい1,200Lのお湯が作れます。薪ボイラーがあることによって、エネルギーの地域循環ができるだけでなく、薪の投入や、掃除や灰の処理といった仕事も生まれます。



照井 大 [35] Terui Dai

栗源第一薪炭供給所 家具職人

2級建築士・インテリアコーディネーター・
第二種電気工事士
1988年 埼玉県生まれ
日本工業大学大学院
工学研究科建築学専攻 博士前期課程修了

28歳まで建築大学で研究員として暗黒時代をおくる。建築家の紹介で福祉楽団に入職し、家具工房の無いまま家具職人として過ごしていたが、2021年に念願の工房が完成した。好きなものは吹奏楽。ファゴットが演奏できます。

地域ケアよしかわ

地域にケアされる訪問介護

「地域ケアよしかわ」は、団地の商店街の空き店舗を活用した訪問介護の事業所です。訪問介護以外にも、制度の枠組みにとられない活動を行っています。たとえば、「みんなの食堂」。事務所内のキッチン付きの大きなテーブルを利用して、だれでも無料で食事ができる食堂を毎週開催しています。吉川市内のボランティアさんが食事を作ってくれて、地域の子どもや、お年寄り、ママさんなどいろんな人で賑わいます。訪問介護の事業所や専門職が地域の人からケアされていることを実感できる機会です。私たちは、コロナ禍であっても必要な取り組みは継続して行ってきました。コロナ陽性になった利用者へも感染症対策をしっかりと、訪問介護を続けたことは非常に感謝されました。地域にケアされ、地域をケアしていく。これからも行動していきます。



週2回開催する「みんなの食堂」では、訪問介護の事務所が団地の食卓になります。ボランティアのお母さんたちも一緒になって、ものすごいスピードで食事を用意します。



松本亜季 [35]

Matsumoto Aki

地域ケアよしかわ
事業部長社会福祉士・介護支援専門員・
介護福祉士
1988年 群馬県生まれ
日本社会事業大学 社会福祉学部 卒業

「福祉を変えるのは国じゃない、ぼくらだ」という当時の福祉楽団のキャッチフレーズに心を掴まれ入職しました。今も自分の指針となっている言葉です。独身の頃はバイクに乗ることが趣味でした。今は3人の子育てでバイクに乗る時間は少なくなりましたが、いつか沖縄の古宇利大橋を家族全員でツーリングするのが夢です。今はファミリーキャンプにはまっています！



私たちは専門職として正しい知識や手技に基づいてケアを展開していくことが重要です。陽性者のケアではガウンを着用しますが、着脱方法などの手技は、しっかりと研修で学びます。

新

型コロナウイルス感染症の流行は、私たちのケアのあり方に大きな影響を与えました。私たちはこれに対して、利用者さんの生活をまもるための実践を積み重ねてきました。流行初期には、国内外のエビデンスをもとに、新型コロナウイルス感染症に対応するためのガイドラインを整備しました。2020年には長崎大学病院と連携し、オンライン研修を企画しました。すると、全国各地から500名を超える介護現場のスタッフの参加があり、その様子をYouTubeにアップしたところ、約7.8万回再生(2023年3月時点)される動画になりました！福祉楽団では科学的な根拠や知見に基づいて、陽性者に対しても積極的に支援を行ってきました。職員一人ひとりが正しい知識と手技を習得したからこそ、実現できたことだと信じています。今もなお、感染の流行は続き、新しい知識や情報が蓄積されています。悩むこともありますが、適切な情報をもとに、多職種の協力のもと、利用者さんの日々の暮らしを考え、支援していきます。

見えない脅威から、
くらしを守るために

ケアチーム



仲宗根和也 [28]

Nakasone Kazuya

ケアチーム

看護師・保健師
1994年 沖縄県生まれ
城西国際大学 看護学部 卒業

総合病院で2年勤務した後、福祉楽団に入職。転職した時に経験年数が少ないと通用しないと言われましたが、今は病院勤務よりも勤務年数が長くなりました！今年は研修でアメリカに行きます！現在英語の勉強中です。

無料学習支援をしています

杜の家やしお

「杜の家やしお」では、地域の子どもを対象に無料学習支援を行なっています。「塾に通うお金がない」「発達障害がある」「学校には行けないが勉強したい」など、さまざまな事情を抱えた子どもたちに、個別指導形式で勉強を教えています。特別養護老人ホームの中で勉強しているので、子どもたちに、介護や福祉について興味を持ってもらうきっかけになっています。私はふだん介護職として働きながら学習支援にも携わっているので、自分がいつも介護している入居者さんと子どもたちの間に、ちょっとした会話と笑顔が生まれる瞬間は、私もうれしくなります。



学習支援は特別養護老人ホームの共用部で行っています。勉強をしていると、通りかかった入居者さんに声をかけられることもよくあります。人の視線があると、自然と集中力も高まります。



遠藤瑞季 [24]

Endo Mizuki

杜の家やしお
ユニットリーダー介護職員初任者研修 修了
1998年 宮城県生まれ
青山学院大学 理工学部 卒業

社会課題をビジネスで解決したいなと思い、さまざまな分野と「福祉」を掛け合わせて広く事業展開している福祉楽団を選びました。食べること(毎食お米1合食べます)と、寝ること(12時間平気で寝ます)が大好きです！

職員ひとりひとりの力を引き出す

成長と挑戦を全力で支えます

コーポレート統括部

学び続けられる環境です

仕 事の実践に必要な具体的なスキル（知識や技術）の研修だけでなく、コンピテンシー（行動や思考の特性）の研修が充実しています。キャンプ研修や海外研修もその一つ。こうした研修を通して、職員ひとりひとりの持ち味を最大限に引き出し、活躍の可能性を広げていきます。また、「新入職員研修」では、座学を中心に述べ2か月の充実したプログラムで、福祉の専門職として必要な知識や考え方をイチから学ぶことができます。新入職員のみならず、初めて福祉楽団のケアに触れる機会なので、企画にも力が入ります。

2年目研修のワンシーンです。この年はキャンプ形式で研修を行いました。仕事場から離れた、自然豊かな場所が会場で、普段できない話も進んだとか。参加者からとても好評でした。

年齢や経験に関係なく挑戦できます

年 齢や勤続年数にかかわらず、職員がさまざまな機会に挑戦できることも福祉楽団の大きな魅力です。ケアの現場では、リーダー職として活躍している1、2年目の職員がいます。福祉楽団は事業の幅が広く、ひとつの会社の中でいろいろな経験ができることもポイントです。高齢・障害・地域・子どもの分野に、さまざまな仕事や役職があるので、分野にとらわれず挑戦したい人には、学びと成長の多い環境となるはず。私自身も、法人全体の職員の採用・育成にかかわる部署のリーダーとして、多くの人と一緒に仕事やプロジェクトを進めています。これまでのやり方にとらわれず、新しい価値を生み出すために、年齢や経験を問わない積極的な人事を進めています。

2022年の秋に、外国人材の採用活動のために、インドネシア出張してきました。外国籍の職員についての理解が深まる良い機会になりました。

資格取得を応援します

福 祉楽団では、職員が前向きに学ぶ風土があります。たとえば資格取得については、「職員能力開発支援金」という制度があります。この制度を利用すると、法人が指定した資格の取得に必要な費用を年間100万円まで借りることができます。しかも、資格取得から3年間勤務すると返済も免除されるんです。私の周りでも、無資格から入職して、働きながら複数の国家資格を取得している人がたくさんいます。未経験からでもプロフェッショナルを目指せるのは本当に良い環境だなと思います。

福祉楽団のケアの好事例を紹介する「ガクダンアワード」では、毎年多くの若手職員がノミネートされます。介護や福祉は未経験だった職員も、研修や自らの学びを通じ、プロフェッショナルとして活躍しています。



高師利紗 [28]
Takashi Risa

コーポレート統括部
人事部 採用・育成課 課長
介護職員初任者研修 修了
1994年 神奈川県生まれ
国際基督教大学 教養学部 卒業

祖父母の介護や海外ボランティアの経験を通じて、福祉に興味を持ちました。「恋する豚研究所」は入職前からの大ファン。最近、大きな車を買ったので、休日はドライブを楽しんでいます。お酒を飲むことも大好きです。





杜の家なりた

沖縄に旅行に行った時の写真です。アメリカンビレッジでは、いろいろなモニメントの前で写真を撮りまわりました！仕事のことはいったんすべて忘れて、リフレッシュできました。

充実した休暇制度

福 祉楽団には、リフレッシュ休暇という制度があり、年に1度、12日以上での連休が取得できます。今年は13日間のリフレッシュ休暇をいただき、結婚式と新婚旅行に行ってきました。結婚式は準備することもたくさん……。切羽詰まらなと物事を進められない私は、急いであらゆる準備をしました(笑)。家族と大切な友達を招待し、とても良い思い出になりました。結婚式も無事に終わり次は新婚旅行！海外も考えましたが、まずは国内旅行をしたかったので沖縄へ！1月上旬でしたが、めちゃくちゃ暑かったです(笑)。沖縄ではレンタカーを借り、美ら海水族館や古宇利島、アメリカンビレッジなどなどたくさんの観光スポットに行きました。結婚式も挙げられて、新婚旅行まで行けて、「この制度があつてよかった〜!!」とつくづく実感しました！とても充実した13日間を終え「さっ！明日から仕事がんばるぞ!!」とあらためて意気込んで仕事がんばってます！



上野遥香 [27]
Ueno Haruka
杜の家なりた
統括ユニットリーダー
介護福祉士
1995年千葉県生まれ
城西国際大学
福祉総合学部 卒業

学生時代に「杜の家なりた」を見学したとき、明るく自由な雰囲気や、まるでひとつの地域のように、さまざまな人が一緒にくらす様子が魅力を感じ、介護をやるならここ！と即決しました(笑)。好きなものはスヌーピー！ポーチや小物、靴下など、なんでもたくさん持っています。自宅のスヌーピーコーナーが、私の何よりの癒やしです。

グッドジョブカードで
お互いを認め合う

杜の家やしお

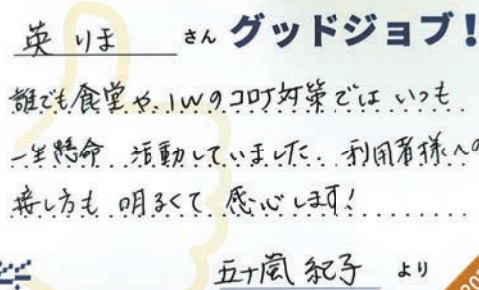
グ ッドジョブカードは、福祉楽団の理念に沿って「いい仕事をした」と思う人に贈るメッセージカードです。カードをもらうと、「ガクダンマイル」が発行され、貯めたマイルは旅行や商品と交換することができます。私はリハビリチームに所属しており、入居者の持っている力の維持や生活を良くするために、ケアの職員と一緒に考えたり、助言したりすることが主な仕事です。一緒に考え、職員の意見を入居者の生活に反映できたときにももらったカードは本当にうれしかったです。グッドジョブカードをもらうと「もっとがんばろう!」というモチベーションにつながります。そして不思議なことに自分がもらうと誰かに渡したくなり、職員の良いケアに自然と気がつくようになります。カードを渡すときに会話も生まれるので、良いコミュニケーション手段の1つにもなっています！



英りま [23]
Hanabusa Rima
杜の家やしお
リハビリテーション職
理学療法士
1999年北海道生まれ
北海道医療大学
リハビリテーション科学部 卒業

大学3年に始めた高齢者の日常生活支援と施設のバイトをきっかけに福祉に興味を持ち、福祉楽団のケアに対する考え方に共感して入職。趣味は読書と餃子づくり。ロックバンドが好きで今年からライブ参戦も再開予定！

「杜の家」では、グッドジョブカードをもらうと、施設の目立つ場所に掲示されます。なかにはイラストを描く人も。「私もがんばるぞ!」というモチベーションになります。



働きやすい職場です

子育てしながら、安心して働けます

2 020年、石川家に長男が誕生しました。長男は1歳のときから「杜の家やしお」に併設されている「ツルガンネ保育所」に通っています。始めは「自分の会社の保育所って何か気まずくないか?」とったりしましたが、すぐ気にならなくなりました(笑)。毎日子どもチームの職員が、ケア記録システムの「ケアコラボ」に写真をたくさんあげてくれるので、保育所での様子もよく分かり、安心して息子を預けながら、仕事ができます。



石川大輝 [35]
Ishikawa Hiroki
杜の家やしお
副施設長
介護福祉士
1987年埼玉県生まれ
埼玉福祉専門学校 卒業

3歳の息子が「Poppy Playtime」という、ホラーゲームの動画を見るのが大好きで、私もその影響を受けて、ゲームに出てくるハギーワギーというキャラクターに最近ハマっています。



杜の家やしお

「ツルガンネ保育所」は「杜の家やしお」の敷地内にあります。特別養護老人ホームのすぐ隣に保育所があるので、ご高齢の入居者さんと子どもたちとの交流も自然に生まれます。

杜の家なりた



福祉楽団の「杜の家」には、住んでいる人も、働いている人もさまざま。いろんな人がいて、当たり前という考えのかわりの中で、私も楽しく働くことができます。

いろいろな人がいて当たり前

「杜 の家なりた」で働き始めて4年になりました。「杜の家なりた」は、建物がきれいで、いつもピカピカ(笑)。景色も良く、とても気に入っている職場です。外国の文化や宗教に配慮があるので、ヒジャブ(頭や身体を覆う布)を着用して働けるし、お祈りのために勤務の調整もしてくれます。研修も充実しているし、国籍関係なく、チャレンジできる環境があります。過去には同じインドネシア国籍の職員がユニットリーダーだったこともあるので、私もいろいろな仕事に挑戦してみたいです。これからも入居者のみなさんが毎日幸せに暮らせるよう、よいケアができる職員になりたいと思います。



フィットリ・アウリア [25]
Fitri Aulia
杜の家なりた
ケアサービスワーカー
1996年
インドネシア・ブンクル生まれ
Poltekkes Kemenkes
Bengkulu Prodi
Keperawatan 卒業

働きやすさだけでなく、チャレンジできる環境に魅力を感じて福祉楽団に入職。今年は介護福祉士の試験に合格しました。植物や花を見ることが好きで、「杜の家なりた」の中庭に咲くひまわりがお気に入りです。

RELATIONSHIP

多領域のスペシャリストとつながり福祉を変える

私たちは多様性を前提にし、制度のスキマを埋め、コミュニティ経済や文化までも視野にいれるような創造的な福祉を実践します。
そのためには、各領域のプロフェッショナルと連携することが必要です。



性の多様性に関する基礎知識やLGBTQの人が職場で直面する困難などを新入職員研修で学ぶ。

当事者の立場から話します

LGBTQフレンドリー

社内研修の講師として、性の多様性に関する研修を担当しています。きっかけは、東京藝術大学の「アート×福祉」のプロジェクト「DOOR」で知り合った理事長の飯田さんにお声がけいただいたこと。「性のあり方」に関する基礎知識をはじめ、利用者だけでなく、ご家族や職場の同僚にもいる性的マイノリティ

が直面している困りごとなどについての内容です。福祉楽団の理念や行動規範で、挙げられているのが「当事者の視点」。性の多様性を切り口に、「ふつう」や「あたりまえ」とされていることをあえて疑い、「その人」にとってどんなケアが求められているかを考え、実践できる人が増えてほしいなと思っています。



松岡宗嗣 Matsuoka Soshi

一般社団法人fair 代表理事

「fair」は政策や法制度に関する性的マイノリティについての情報発信をする団体です。ゲイであることをオープンにしながら、『Yahoo!ニュース』や『HUFFPOST』『現代ビジネス』『GQ』などで多様性に関する記事を寄稿しています。

ブランディング

ロゴやパッケージをデザインしています

「恋する豚研究所」がスタートした2012年頃から、ブランドロゴやサイン、商品パッケージなどの制作をしています。私はどの仕事でも、事業の内容や目指す方向性、実現したい目標などを十分に理解したうえで制作したいと思っていますが、福祉楽団の仕事では、考えを伝えてくださり、議論を重ねることができるので、デザイナーとしてありがたいです。また、視覚や触覚といった

「感覚」をとても大切にされていて、それが建築やデザインを重視する姿勢にも表れていると思います。「恋する豚研究所」は「おいしい豚肉」ブランドとして成長を続けていますが、「1K」（栗源第一薪炭供給所）のジャムや家具など、農や里山保全にかかわる事業もこれから豊かに発展して欲しいし、その魅力をより多くの人に伝えられるようにお手伝いできたらうれしいです。



福岡南央子 Fukuoka Naoko

グラフィックデザイナー／アートディレクター

2010年 woolen（株式会社ウーレン）設立。2008年 JAGDA 新人賞・パッケージ賞、東京ADC賞、2009年日本パッケージデザイン大賞金賞受賞、2011年TDC賞ノミネート。2017年 TOPAWARDS ASIA APRIL/AUGUST 受賞。VI、パッケージや書籍などグラフィックデザインを基軸に制作を行っている。2014年 woolen press スタート。

woolen2010.tumblr.com | woolenpress.tumblr.com | instagram:woolen_graphic



福祉楽団

「恋する豚研究所」をはじめ福祉楽団のさまざまなグラフィックデザインを手がける。



「杜の家やしお」内「ツルガネ保育所」を担当。現在、「実初パークサイドハウス」の設計が進行中。

建築

人と場所の関係を再構築する実践

「ツバメアーキテツ」は、2013年設立の設計事務所です。建築の設計を行う「デザイン」と、そもそも何をつくるか・つくった後にどうするかを考えるシンクタンク「ラボ」の2部門で活動しております。福祉施設を設計するときには、必要な機能や法律を満たそうとするわけですが、それだけだと「施設」になってしまい、建物自身がさまざまなバリアを無自覚につくりかねません。福祉楽団の手がけるプロジェクト

は、訪れる人やかかわる人が皆、健やかに、楽しく過ごせる工夫や知恵が詰まっています。そういった意味で、福祉楽団による人と場所の関係を再構築する実践は、我々建築の専門家にとっても、「そもそも」を考えさせられるインスピレーションの源となっています。一緒に進めているプロジェクトを通して、これからの人類が必要とする場や建築のあり方について真剣に議論していけたらと考えてます。



山道拓人 Sando Takuto

ツバメアーキテツ 共同主宰

1986年 東京都生まれ。東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。2018年 同大学博士課程単位取得満期で退学。2012年 ELEMENTAL / 2012-2013年 Tsukuruba Inc. / 2013年 ツバメアーキテツを設立。2021年から江戸東京研究センターのプロジェクトリーダーとなる。2023年 法政大学准教授。

ICT 「ケアコラボ」を一緒に開発しています

福祉楽団とケア記録ソフト「ケアコラボ」の開発を始めたのは2014年。議論を重ねつつ、施設を何度も訪問しました。固定観念を超えて、利用者と社会にとっての理想を打ち立てる。その実現のため、科学的なケア、意図を込めた建築、ユニークなビジネスモデルなどあらゆる手段を尽くす。その一環としてICTを野心的に活用する。複合的な試みでありながら、創り上げたいのは日常とも呼べるようなケアの光景であ

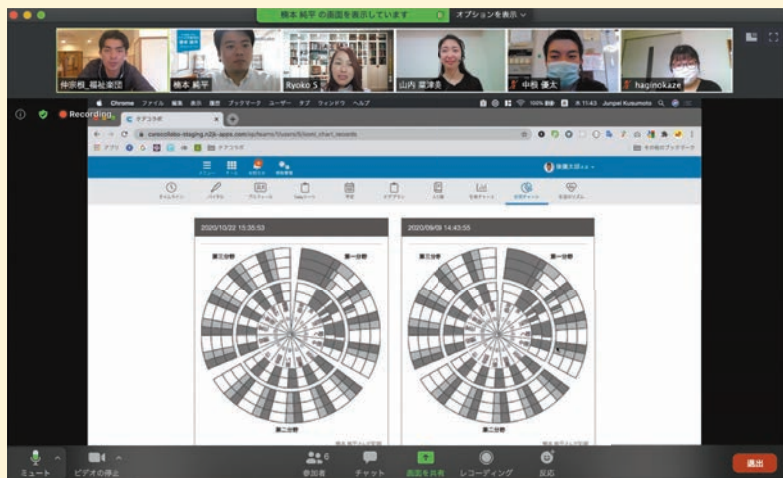
ることに感銘を受けました。中でも、スタッフの専門性とチームワークから感じるプロフェッショナルな印象が「ケアはプロの仕事なんだ」と感じ入りました。プロは使う道具にもこだわりを持っており、ケアコラボはそのこだわりが産んだ一つの成果です。今後も、過去に例を見ない企画なのに、できあがってしまうと実はそれが正解だったと誰しもが思ってしまうような、そんな取り組みを期待しています。



藤原士朗 Fujiwara Shiro

ケアコラボ株式会社 代表

副社長を務めるIT企業（株式会社ソニックガーデン）へのケア記録システムの開発依頼をきっかけに、社会福祉法人のミッションに向かう力強さと、介護職の人的魅力に惹かれ、「ケアコラボ」を提供する法人を設立。



福祉楽団の全拠点で導入している「ケアコラボ」の開発ミーティングには現場の職員が参加する。

未来をともに考えます
ケアから生まれる地域の

研究 × 実践

福祉楽団は、100年くらいの時間軸で空間的な「地域」のなかでさまざまな形で小さな経済循環をつくり出しています。それはいつも地域を歩き、地域の人のお話を聞くこと、1対1のケアから生まれる。だから一つとして同じ形がない。でも、根っこにはいつも「ケアのものさし」がある。ともにかかわりを持つことで、思い込みを脱して、その都度の関係のなかで

生み出される意味や役割にわくわくして、さらに次へと駆動されてしまう関係をつくりだす。そんなケア実践の積み重ねはきっと、他者への想像力と配慮に満ちた、相互性にもとづく「場」としての地域コミュニティと、それを意図しない形で担いあう当事者としての住民の生成にもつながるのではないかと期待しています。



堀田聡子 Hotta Satoko 慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授

東京大学特任准教授等を経て現職（認知症未来共創ハブ・リーダー）。博士（国際公共政策）。障害者の自立生活の介助を継続しながら、人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた移行の支援および加速に取り組む。



埼玉県草加市の後援を受け福祉楽団が主催した「重層的支援体制の構築に向けた勉強会」では「住民主体の共生型地域づくり—各地のチャレンジとAAR循環—」をテーマに講師を担当。

ウェア

ユニフォームをつくりました

ポケットや素材を別注したトレイルジャケットと、完全オリジナルのベストを制作しました。いちばん最初のリクエストは「スタッフが着たいと思うウェアにしたい」というもので、ディテールの協議が進むなかでは、屋外での夕方以降の着用を想定して「安全のために反射材を使用したい」との要望もあり、スタッフの方々をすごく大事にされている法人という印象です。また、福祉現場の方々とのミーティングでは多様

な意見やアイデアがたくさん出されて、自由でフレンドリーな社風を感じました。「福祉楽団」や「恋する豚研究所」というネーミングも素敵ですね（笑）。福祉事業は社会的にますます重要になると思いますので、福祉とは違う領域からではありますが、ユニフォーム制作にかかわった「楽団」の一員として、これからの発展を楽しみに応援しています。



素材からポケットの形状に至るまで機能性を高め、福祉楽団のコーポレートカラーをベースにスタイリッシュなデザインに。

ユニフォーム サーカス ビームス Uniform Circus BEAMS

セレクトショップ「ビームス」のユニフォーム事業部として1988年から展開している「Uniform Circus BEAMS」は、大学のサークルや部活動で着用するチームウェアのオーダーからスタートし、お客様からのご依頼に応じたさまざまなアイテムをつくってきました。現在は主に企業ユニフォームやノベルティグッズの制作を手掛け、ファッション的な視点からご提案をしています。

Uniform
BEAMS Circus

福祉

福祉のおもしろさを語り合います

福祉楽団との出会いは2014年の介護男子スタディープロジェクト。当時、私も飯田さんも30代でしたが、互いに介護業界を変えようと意気投合しプロジェクトを立ち上げました。あれから10年近くが経ちますが、今も私に影響を与えてくれる存在です。福祉楽団では、「恋する豚研究所」というこれまでの福祉とは一線を画するまったく新しいアプ

ローチが人々の共感を生んだと思います。しかし、見落として欲しくないのは、それらの事業の根幹は、いつでも「人」が中心にあることです。そのことは私たちとも共通する理念です。AIの時代においても、「人」でしか成し得ないさまざまな課題解決を、「福祉」というツールでつなぎ合わせる活動をしている。これが私の目に映る福祉楽団です。



馬場拓也 Baba Takuya

社会福祉法人愛川舜寿会 理事長

1976年 神奈川県生まれ。日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科修了。大学卒業後「ジョルジオアルマーニジャパン」を経て2010年に現法人に参画。高齢者介護の「ミノワホーム」、インクルーシブ保育の「カミヤト凸凹保育園plus」、荒廃する商業区画で地域をつなぐ「春日台センター」などを経営。共著に『わたしの身体はままたらない』（河出書房新社）ほか。



書籍発行やイベント開催を行った「介護男子スタディーズ」。



福祉楽団と愛川舜寿会は2020年に雑誌「POPEYE」の福祉特集の制作にも参画した。

ABOUT



10の拠点 千葉県と埼玉県に9つの事業所があります。それぞれの地域のニーズにこたえ、制度にとらわれない幅広いサービスを行っています。2024年度には、千葉県習志野市に児童養護施設を中心とした新しいケア拠点ができます。

法人設立

22

年目

2001年スタート!

2001年の法人設立から20年以上がたちました。福祉楽団はこれからの制度の枠や常識にとらわれず、新たな挑戦を続けていきます。

年間事業活動収益

27

約 億円

売上高は毎年増え続けています

全国にある約2万の社会福祉法人のうち、事業活動収益が10億円を超える法人の割合は約10%で、その中に福祉楽団も入っています。

職員数

467

名

全員が正職員です

職員の平均年齢は40.2歳と若くフラットに意見を言い合える環境です。年齢や勤続年数にとらわれず若い世代がリーダーになっています。

柔軟な働き方

9

つの区分

Wワーク(副業)もOK!

1日4時間や週3回勤務など、ライフステージやその時のやりたいことに応じて働き方の区分を9つから選べます。WワークもOKです。

2か月の新入職員研修



福祉を学んでなくても大丈夫

新入職員研修は延べ2か月。研修を終えると「介護職員初任者研修修了」の資格が取得できます!

ユニークな研修



キャンプも海外も!

研修費用は年間約1,650万円。スキルやコンピテンシーを鍛えるための研修プログラムがたくさんあります。

100万円の資格取得支援



2つの国家資格を取得!

働きながら資格取得を目指す職員に100万円まで貸与します。取得後3年間働くと返済が免除されます。

リフレッシュ休暇

28

最長 連休

取得率は100%

入職2年目から毎年12連休以上、4年目からは別途5連休以上を取得できます。

職員住宅と住宅手当



家賃は1万5千円

職員住宅は4か所あり月額15万円で入居できます。賃貸住宅の一人暮らしには最大2.5万円の手当が出ます。

ガクダンマイレージ制度



マイルを貯めてほしい物ゲット

グッドジョブをすると「ガクダンマイル」がもらえます。貯めると商品や旅行と交換できます。

子育てサポート



事業所内に保育所あります

育休からの復職率は100%です。「杜の家」3拠点には保育所が併設されているので安心して働けます。

LGBTQフレンドリー



いろんな人がいて当たり前

各拠点にアライを配置し、すべての管理職が性的マイノリティの理解を促す研修を受けています。

国籍もさまざま



人材の多様性が進んでいます

インドネシアやフィリピン国籍の職員が働いています。宗教上の配慮をし誰もが働きやすい環境をつくります。

障害者雇用率

3.43

%

障害のある人も一緒に

民間企業の全国平均は2.25%です。福祉楽団では障害のある人41名と協働しています。

福祉を変えるのは国じゃない。ぼくらだ。

福祉を変えるのは、国や「どこかの誰か」ではありません。ぼくらの日々の活動や、目の前の人へのひとつひとつの取り組みが福祉を変えます。実践が先、制度は後。一緒に福祉を実践してみませんか。ぼくは農学部出身で、福祉のことは右も左もわからないまま飛び込みました。それでも、たくさんの人の支援を受けつつ続けてこれたのは、人への関心と、行動があったからだと思います。行動が先、計画は後(笑)。福祉やケアの勉強をしてきていないからといって気落ちする必要はありません。「経験者」という人のなかには「いまのやり方」で「過ちに気づかないまま」やっている人が多くいます。そこに「？」を投入し、利用者のより良い生活のために考え、行動

できる人が必要です。「人への関心」があれば、もっと良くしたいと行動するでしょう。それが「熱意」というものです。その「熱意」があれば、やがて福祉が自分の仕事になっていきます。指示や指摘をされて行う仕事ではなく、あなたの熱意と知識によって行われる仕事は、福祉の景色を変えていくと確信しています。生活をもっと良くしたいという行動は、心と身体の仕組みや歴史、文化の知識によって支えられます。そうした知識や技術は、あなたの表情や伝え方、元気の良さ、リーダーシップによってより良く発揮されます。福祉楽団では、人材育成に多くの予算を確保し、職員が学ぶ機会を保障しています。一緒に仕事ができることを楽しみにしています。



飯田大輔 [45]

Iida Daisuke

福祉楽団 理事長

介護福祉士・大型自動車免許
1978年千葉県生まれ
東京農業大学 農学部 卒業
千葉大学大学院 修了

学生時代は、小田急線「千歳船橋」駅近くに住み世田谷の教習所でバイクの免許をとる。木村拓哉のテレビドラマに影響されてヤマハ・TW200というバイクを購入、都内を走り回る。スポーツは苦手。球技はできない(笑)。コロナ禍になってジムに行き始めたが体形は変わらない。

MATCHING

面談相手を見つけよう！あなたはどんなタイプ？

キャリアデザイン面談マッチングチャート



福祉楽団は一人ひとりとの“マッチング”を大切にします

今しかない大切な時間に寄り添い、本音で向き合う採用選考。福祉楽団らしくちょっとわくわくできる仕掛けで、働いているからこそわかる「仕事のやりがい」や「大変さ」もリアルにお伝えします。詳細やエントリーはリクルート専用サイトで。FAQ（よくある質問）や職員紹介のコーナーもあります。



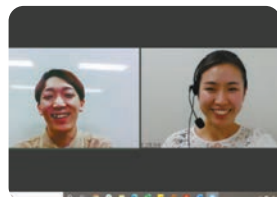
見学ツアー /

「ごちゃまぜのケア」を見たり、恋する豚のしゃぶしゃぶを味わったり。福祉楽団を五感で体験できるツアーを開催しています。



いつものスタイルで /

福祉楽団はあなたらしさを尊重します。見学ツアーや採用選考にもいつも通りの服装や髪型でリラックスしてご参加ください。



キャリアデザイン面談 /

1対1で、具体的な仕事の内容や多様な働き方について相談することができます。ちょっとした心配にも丁寧にこたえます。



松井周星 [25]

Matsui Shusei

コーポレート統括部

介護職員初任者研修 修了

1997年 新潟県生まれ

東京外国語大学 国際社会学部 卒業

大学時代に人間の生活に関心を持ち、福祉楽団のケアの考え方に共感して、入職を決めました。福祉は未経験でしたが、職場内外での学びの機会が充実しているので、おもしろさを感じながら働いています。趣味はサイクリング。昨年のリフレッシュ休暇は、北陸を自転車で旅行しました。



recruit.gakudan.org



お別れもあります

住み慣れた場所で、その人らしい自然な最期を迎えられるように、「杜の家」では終末期ケアに取り組んでいます。亡くなられたあと、ご家族の希望があればお葬式やお別れ会も行います。他の入居者さんや職員と焼香をさせてもらったり、思い出の写真を大きなスクリーンに映したりして、お見送ります。



みんなでゆったり過ごしています

地域や社会がそうであるのと同じように、「杜の家なりた」にもさまざまな人たちがいます。特別養護老人ホームや、高齢者と子どものデイサービス、職員の子どものための保育所もあります。緑や空が気持ちのいい環境で、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のある人もない人も、のびのびと生活や活動ができることです。



加茂航平 [24]

Kamo Kohei

杜の家なりた
ユニットサブリーダー

社会福祉士
介護職員初任者研修 修了
1999年 埼玉県生まれ
聖学院大学 人間福祉学部 卒業

人とかわる仕事をしたいと思ったのが、福祉の道を決意したきっかけ。その中で「福祉を変える」という、福祉に対する熱い想いを感じて福祉楽団に入職。好きなアーティストは「Mr.Children」。休日はサウナや岩盤浴でリフレッシュしたり、サッカー観戦や野球観戦にも行きます。一緒に行ってくれる人を募集中です(笑)

🌳 杜の家
なりた

秋の仕事を NARITA



お風呂でアツく 野球を語ります

お風呂好きの山口博さんは入浴中にいろいろ話してくれます。若い頃のエピソードや大好きなプロ野球……最近はジャイアンツへのポヤキが中心ですが(笑)。介助としては、傷や内出血がないか全身を観察しながら、洗にくい背中などはお手伝いしますが、ご本人にできることはご本人にやっていただきます。その人の持てる力・健康な力を活用し、高める援助を大事にしています。



ケアラボで 多職種ミーティング

介護職、看護師、リハ職、栄養士、相談員などが集まって、入居者さん一人ひとりについて最善のケアを探ります。そのために世代や職位を問わず本音で議論します。前提となるのは科学的根拠。介護記録システム「ケアラボ」で食事量や水分量、BMIといったデータを見ながら話し合います。



福祉を変えていく



RECRUIT ISSUE

GAKUDAN JOURNAL